

# 月にみがきて

6月

更級小学校だよりNo. 3

H25. 6. 28

「

」 飯山市立戸狩小学校のお話

## 子どもたちのつけた題名は？

去る6月12日(水)の校長講話は以下のようなお話をしました。子どもたちはこのお話をどのように聞き取り、その内容をどう心で聴いたのでしょうか。お話を自由に題名をつけることで、子どもたちが受け取った心が垣間見れるようです。中には思わず微笑む、機転の聞いた題名もあります。



今から十年ほど前のことになりますが、5月6日、この学校の校長先生のところに、「山で仕事をしていたら、大きな石のところにタヌキが2ひきとり残されていました。」と言って、生まれて10日くらいの赤ちゃんタヌキがとどけられました。石のところにとり残されていた赤ちゃんタヌキですから、もとのところにもどうしても、親にあえるか分かりませんので、学校でかうことにしたそうです。

子どもたちが給食のこりをあげたり、休みの日には当番を決めてえさをあげたので、タヌキはどんどん大きくなっていきました。2ひきのタヌキはめですでした。子ども達ともたいへんかよしになりました。

そんなある日、ふとしたことから、この2ひきのタヌキは、脱走してしまいました。タヌキは、もともと森の中にすんでいる野生の動物です。きっと、ほんとうの森に帰りたかったのだと思います。子どもたちも先生も、もう帰ってこないのではないかとあきらめっていました。

そしたら、次の年の5月、にげだした1ひきがもどってきたのです。でも、ようすがおかしいのです。お腹がとても大きいのです。1週間くらいすると、5ひきの赤ちゃんを産みました。でも、かなしいことに1ひきはすぐ死んでしまいました。4ひきは、お母さんタヌキのおちちを飲み、それからは、子どもたちが少しかたいものを与えていきました。タヌキは何でも食べますが、ヘビやトカゲなどをよく食べます。みんながお肉やお魚を食べるよう、タヌキはヘビやトカゲを食べないと大きくなれません。



ある休みの日に、5年生の子どもたちが学校でかっているヤギの当番にきました。当番をおえて帰ろうとしたとき、5~60センチのシマヘビをつかまえました。子どもたちは「タヌキにあげていいですか。」と学校にきていた校長先生にききました。校長先生は「赤ちゃんタヌキが大きくなつたので、もうあげていいでしょう。」と答え、いっしょにタヌキの小屋に行きました。かなあみのあなからヘビを入れました。さっそく4ひきの子だぬきたちは、先を争ってだれよりも先に食べようとヘビにとびつきました。そのときです。お母さんタヌキが「グオー」というものすごく大きな声をだして、子だぬきたちが、ヘビを食べようとするのをやめさせました。子だぬきたちは、はじめてきくお母さんダヌキのものすごい声と顔にびっくりしてヘビから遠くはなれました。

お母さんタヌキは、まずヘビの頭をかんで、ヘビを動けなくしました。それから、長いヘビを4つに分けました。今度はさっきの声とはまったく違う優しい声で、「フイー」となきました。子だぬきたちはさっそく分けてもらったヘビを食べ始めました。



びっくりしたのは、それを見ていた当番の子どもたちでした。「すげえー、ヤギのメリーよりりこうだ。」「お母さんダヌキは、自分勝手はいけないと子ダヌキに教えたんだ。」

それから、この話が学校だけでなく、地域のみなさんにも伝わっ

て、タヌキの親子を見に来る人が多くなったそうです。

タヌキもまた、自分勝手はいけないと子ダヌキに厳しく教えていました。自分のことだけを考えていたり、自分勝手にしたりするとどうなるでしょうか。

更級小学校の皆さんは清掃や給食の準備や片付け、授業など学校生活のいろいろなところでお友だちのことを考えながら行動できる人であってほしいと思います。

<b>2年生</b>	<b>「タヌキの かぞく」</b> 「やさしい たぬきの おかあさん」	<b>「どこでもなかよし タヌキ」</b>
<b>3年生</b>	<b>「小学校のタヌキは いのちをまもる」</b>	<b>「タヌキの 生命のつながり」</b>
<b>4年生</b>	<b>「たぬきの 物語」</b> 「かわいいタヌキと 子どもたち」	<b>「かわいいたぬきの 親子」</b> 「しあわせなたぬきの おやこ」
<b>5年生</b>	<b>「母さんタヌキと小ダヌキ」</b> 「四匹の小ダヌキと1匹の母だぬき」 「母ダヌキのおしえ」	<b>「四匹の小ダヌキ」</b> 「親子の絆」
<b>6年生</b>	<b>「親子の優しさが生んだ行動」</b> 「たぬきおやこ ヘビをいただく」	<b>「母ダヌキの心温まる実話」</b> 「おやこダヌキの心あたたまるお話」

おうちの方々はどんな題名をつけられるでしょうか。中身に迫る題名、機転の利いた題名。みんな同じでないってどこが楽しいですね。

## 上級生から下級生へつながる心 雨の日の玄関で傘の始末をする子どもたち

最近はやや雨の日も多く、朝、昇降口は傘をさしてきた子どもたちでいっぱいです。

大勢の子どもたちが昇降口で集中しますので、普通でしたら昇降口が雨水でぬれたり、それが次の板の床にまでしづくが落ちてずぶぬれとなったりするのですが、更級小学校の昇降口はそんな時もぬれて困ることはあります。

それは子どもたちが入り口の外で傘の露を払い、傘をきちんと縛って下駄箱の前の傘たてにみんなきちんと入れるからです。見ていると低学年か高学年の子どもたち、みんながしています。

そんなよい習慣は誰から子どもたちは教わっているのでしょうか。それはどうも高学年の姿を他の学年の子が見てまねをしているからのようです。上級生から下級生へそうした学びが伝わっているようです。すばらしいことですね。



## 須坂 交通安全を喚起する看板の設置 ありがとうございました

5月23日（木）児童館から17時ごろ下校途中の3年生が、須坂の下の場所でスピードを出して走ってきた軽トラを避けようとして右下の田へ飛び降りその際けがをする事故がありました。子どもたちに注意を喚起するとともに、ナンバーを覚えて連絡するよう指導をしました。その後、区長さんにも対策をお願いしましたところ、新設の看板は難しいということでしたが、市にあった看板を北と南に向けて設置していただきました。皆様のご支援に感謝するとともに事故のないよう今後も気をつけたいと思います。

